りぶらサポータークラブ 平成 22 年度 活動報告書



平成 23 年 3 月 りぶらサポータークラブ



りぶらいおん©LSC



ごあいさつ



図書館交流プラザ・Libra オープンと共に発足した「りぶらサポータークラブ」も、3年が経ち少しずつ落ち着いてまいりました。22年度は、21年度の多くの人たちと協働するという目的から、生涯学習施設としての"りぶら"を、基礎から大きく支援するための事業へと進展させました。

りぶらを利用している人の年齢層や男女比、曜日や時間による利用者層の違いを調査するとともに、新しい図書館の満足度調査など、事業展開をするための基礎資料作成や、市民の活動を繋げるボランティアシステムの確立など、地味ではありますが大事な事業が進みました。

また、市民との交流を主眼とした「りぶらまつり」や、 地域とのかかわりを意識した「りぶら いきものみっ

け隊」は、りぶら応援団や岡崎市応援団を増やしていけたと思っています。サポータークラブの事業だけでなく、りぶら全体の広報を担う情報誌 "Libra I on" は、オープンから発行を続け、3月には14号をお届けすることができました。白黒の印刷からカラー印刷へと変わり、楽しく読んでいただけるものとなりました。

今年度、その時々の問題に対応して臨機応変に事業を実施できる「りぶらサポータークラブ」ならではの企画がありました。図書館のネット利用者に対する問題を考えるフォーラムや、生涯学習講師養成講座のコーディネートは、図書館や生涯学習班を適切にサポートできたと自負しています。

22年度の成果を踏まえ、多くの方の意見を聞きながら、23年度も市民や行政の適切なサポートができるよう、充実した活動を目指したいと思います。

りぶらサポータークラブ 代表 山田美代子

\$

目 次

平成22年度の事業一覧 …… 2

平成22年度事業及びプロジェクト報告書 … … 4

平成 23 年度の運営方針 … … 22

資料編目次 … … 23

運営		運営企画会議:毎月第 1 木曜日 18:30 から 活動コーナー 事業連絡会議:毎月第 3 木曜日 18:30 から 活動コーナー 事務局:毎週月・火・金 13:30 ~ 16:00
会員研修		「成 22 年度生涯学習ボランティアコーディネーター養成講座」 「ボランティアマネージャー養成講座」「ボランティアマネージャー講座」
広	No.1	広報:全体(戸松) ・広報誌の発行、ホームページの更新、コンビニラックの活用、全体事業のチラシ・ポスターなどの作成。
報	No.2	広報ツールの開発と運用:全体(杉浦) ・グッズの開発と、これまでのグッズを活用した企画の立案と実施、販売 促進活動など。
図 書 No.3 館		岡崎図書館未来企画:図書館研究(戸松) ・岡崎市の図書館にふさわしい評価指標をつくり、客観的なデータに基づいた市民の声を提案。 ・読書推進のための企画と実施(読書マラソンなど)。
	No.4	ボランティアを育む会:活動支援研究(山田) ・ボランティアしたい人としてほしい行政や団体をつなぎ、活発な市民活動できるようにするために、ボランティアの育成と組織化を図る。
活	No.5	りぶら利用者行動観察のシステム化:活動支援研究(森) ・利用者の施設活用理由のメカニズムを探究するために、施設利用者の定 期観察や意識調査の実施し、調査結果の情報開示、調査結果から事業企画 の提案、施設全体の管理指標の提案などをする。
動 支 援	No.6	りぶら市民セミナーの実践的研究:活動支援研究(森) ・市民が学んだ事を他の市民へ伝えていく活動の場を提供するセミナー開 設の研究をし、りぶらの市民セミナー形態を確立する。
	No.7	チーム HAPPY! パパ: 個別 (斎藤) ・地域の父親たちの子育てネットワークの構築の基盤を作ることを目的に、 子育て法学ぶ、子どもプログラム「生き物みっけ」「わくわく科学教室」、 父親から話す性の話、親子パン教室、冒険遊び場プレーパークなどを実施 する。

文化創造	No.8	講演会 & フォーラム:全体 (山田) ・施設者と利用者双方の啓発となるような、また、りぶらの 4 つの機能を活かすような講演会やフォーラムを企画。					
	No.9	シネマ・ド・りぶら:個別(内田) ・図書館の映像資料を活用し、スクリーンでの映画鑑賞機会を作るととも に、映画にまつわる関係資料の案内をして、図書館資料の活用を図る。					
	No.10	りぶらまつり:全体(りた) ・図書館まつり実行委員会と合同でりぶらまつりを開催。図書館まつり実 行委員会はおもに図書館内の企画、「りた」は昨年度のつながりを活かし たコーディネート、LSC は総合サポートを担当。					
	No.11	りぶら交差点 (LSC 事業公開): 全体 (森) ・会員やりぶら利用者の情報交換の場づくり。					
交流	No.12	外国人が日本語の歌を歌うのど自慢大会:個別(戸松) ・施設の活用と国際交流をはかるため、日本語を学ぶ外国人に日本語の歌 を競ってもらい、交流につなげる。					
	No.13	庭で遊ぼう:個別・協働(杉浦) ・伊賀川や交流広場での野鳥観察や、プロムナードでの空き缶ドルナイト の実施など、りぶらの庭を活用した事業を実施する。					
	No.14	りぶらを活用:協働(斎藤・山田) ・地域や多世代の利用者がりぶらで交流し、新しいつながりを作れるよう にするため、施設を最大限活用した協働企画を募集・提案・実施する。					
生涯学習講師 養成講座		市内外各所において学習活動をしてきた市民を対象に、得た学びを伝えることの楽 しさや大切さ、講師になるための話し方の技術、また、生涯学習複合施設としての りぶらの活用法などを学ぶ講座の開催を生涯学習課より受託。					
派遣		図書館交流プラザ運営協議会:山田・斎藤 図書館交流プラザ自主事業実行委員会:山田・森 第2次岡崎市生涯学習推進計画策定委員会:森・戸松					

プロジェクト活動報告

総会、運営会議

総会 日時:5月22日(土)13:30~14:15

場所:会議室 301·302

運営会議

開催日	時間	内 容	参加人数
4月1日(木)	$18:30 \sim 20:55$	運営委員会	15名
4月15日(木)	18:30 ∼ 20:30	運営委員会	12名
5月17日(木)	$18:30 \sim 20:50$	運営企画会議	10名
6月17日(木)	18:30 ~ 20:15	運営企画会議	11名
7月1日(木)	18:30 ~ 20:50	運営企画会議	9名
7月15日(木)	$18:30 \sim 20:50$	事業連絡会議	12名
8月19日(木)	18:30 ~ 21:00	事業連絡会議	11名
9月2日(木)	18:30 ~	運営企画会議	6名
9月16日(木)	18:30 ~ 21:00	事業連絡会議	11名
10月7日(木)	18:30 ~	運営企画会議	10名
10月21日(木)	18:30 ~ 21:00	事業連絡会議	10名
11月4日(木)	$18:30 \sim 20:50$	運営企画会議	12名
11月18日(木)	18:30 ∼ 21:50	事業連絡会議	13名
12月16日(木)	18:30 ~ 20:00	事業連絡会議	12名
1月6日(木)	18:30 ~	運営企画会議	7名
1月20日(木)	18:00 ~ 20:00	事業連絡会議	11名
2月3日(木)	18:00 ~ 21:00	運営企画会議	11名
2月17日(木)	18:30 ~	事業連絡会議	13名
3月17日(木)	18:30 ∼	事業連絡会議	12名

会員研修

①平成22年度生涯学習ボランティアコーディネーター養成講座

日時:7/23(金)・7/28(水)・8/9(月)9:00~15:00 参加者3名

場所:愛知県生涯学習推進センター 主催:愛知県教育委員会

②ボランティアマネージャー養成講座 講師: 織田元樹氏 9月30日(木)13:30~16:30会議室301参加者:14名

③ボラみみ主催「ボランティアマネージャー講座」参加者:6名

「すぐに役立つ! ボランティアマネージメントのコツ!!」

1月23日(日)10:30~16:15 講師:後藤麻理子氏

2月 6日(日)10:30~16:15 講師:小原宗一氏

2月13日(日)10:30~16:15 講師:小原宗一氏

2月27日(日)10:00~12:00 講師:織田元樹氏

No.1 広報:全体(戸松)

プロジェクトの目的

- ・りぶらと LSC 活動の情報発信、および活動の可視化。
- ・りぶらサポータークラブの周知活動。

活動実績

- ①情報誌の制作・発行:年6回
- ②ホームページの更新:随時
- ③メールマガジンの発行:年12回

プロジェクトの成果

- ①ホームページの更新作業を、専任でやってもらえる人に委託することができた。
- ②情報誌をモノクロ印刷からカラー印刷(vol.11 から)に変更した。
- ④ホームページへの月平均の訪問者数が、30件(4月)から100件(3月)に増えた。とくに "Librahack" 事件の報道やフォーラム関係の報告を載せたときは、1,200件から7,000件のアクセスがあった。資料(P.26)参照。
- ⑤「りぶら」のトップページにバナーが設置された。
- ⑥図書館のホームページ内「図書館の活動」に、「図書館だより」として「Libra I on」の図書館情報のページがリンクされている。

平成23年度の展開

現状の活動を継続。

情報誌の編集員を募集していきます。













No.2 広報ツールの開発と運用:全体(杉浦)

プロジェクトの目的

- りぶらグッズの活用。
- りぶらサポータークラブの周知。
- 財源確保。

活動実績

- ①「いきもの缶バッジ」の制作と販売
- ②「りぶらまつり 2010」の景品利用
- ③「読書マラソン」の景品利用
- ④「外国人日本語のど自慢大会」の景品利用
- ⑤「来館者300万人」記念品
- ⑥販売点数 191 点

プロジェクトの成果

- ①現状の在庫の販売と利用を主体に、開発を必要最低限にとどめ、
- 事業予算を他に回して活用した。 ②景品としての活用を促進できた。

平成 23 年度の展開

- ・「りぶらいおん缶バッジ」が終了したため、追加オーダーをします。
- ・受託事業費ではなく、自主事業費の範囲内で開発を考えていきます。

来館者 300 万人達成 記念品贈呈



来館者 300 万人達成 インタビュー





No.3 岡崎図書館未来企画:図書館研究(戸松)

プロジェクトの目的

- ・岡崎市の図書館にふさわしい評価指標をつくり、客観的なデータに基づい た市民の声を提案する。
- ・読書推進のための企画を実施(読書マラソンなど)する。

活動実績

- ①読書マラソンシートの配付 (5/15~3/31)。
- ②「評価指標づくり」のためのアンケート実施 (7/9・11 日・13 日)。
- ③フォーラムの開催(12/18)、および利用者と行政をつなぐ活動。

「ネット時代の情報拠点としての図書館 ~ librahack 事件から考える~ |

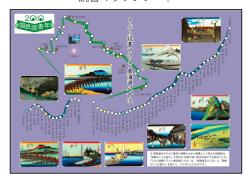
プロジェクトの成果

- ①読書マラソンシートを 2.500 枚配付。
- ②アンケート結果は、資料 (P24~25) をご参照下さい。
- ③公式記録の発表をもって、"事件"としては収束できた。 フォーラムの開催を通して、LSCの活動を周知し、岡崎市内外の多くの方々 と交流することができた。

平成23年度の展開

- ①評価指標づくりの継続 (月1の定例会)。
- ②オープンソース研究 (随時)。
- ③テーマ展示ブックレビュー(年間8回・グループ室) 一ヶ月半に1つ設定される図書館のテーマ展示に則した本の紹介を行う (年間8回予定)。

読書マラソンシート







No.4 ボランティアを育む会:活動支援研究(山田)

プロジェクトの目的

- ・行政との協働での「市民主体の運営」を視野に、よりよいりぶらの運営を 目指し、質の高い仕組み作りとボランティアの育成をする。
- ・りぶらの行政や市民団体などのボランティア依頼とボランティアを希望する市民をつなげ、ボランティアニーズの把握やボランティアマネージャーの 養成をする。

活動実績

- ①毎月、第1月曜日に定例の会合を開催(各回、概ね5名程出席)。
- ②りたと協力し、ボランティアのマッチングを行った。
 - ・ボランティアマッチング:11 事業・延べ 130 人
 - ・ボランティア登録:3月末現在91人

【マッチングしたボランティア業務の種類】

定期的なボランティア

- ・書架整理(図書館)
- ・広報編集・印刷・製本 (LSC)
- ・草取り (LSC)
- ・「シネマ・ド・りぶら」上映手伝い (LSC)

単発的なボランティア

- ・手作り工作手伝い(金のりんご)
- ・空き缶ドルナイト (LSC)
- ・七夕飾り手伝い(岡崎市図書館交流プラザ自主事業実行委員会)
- ・「岡崎未来企画アンケート」手伝い (LSC)
- ・「調べ学習賞作品展示」見守り(図書館)
- ・展示本見守り (子どもの本研究会)
- ・りぶらまつり (岡崎市図書館交流プラザ・LSC)
- ・「外国人が日本語の歌を歌うのど自慢大会」手伝い (LSC・LICC)
- ・「冬のコンサート」手伝い (LSC)
- ③りぶらミステリーツアー

7月24日(土)13:30~15:30 全館 参加者:27名

プロジェクトの成果

- ・りたと LSC とのボランティアシステムの基礎が完成。業務依頼や登録、マッチングをりたに委任。LSC はボランティアのマネージをした。
- ・ボランティアの受け入れ、活用の仕方、次回へのつなぎ等のシステムを確立。
- ・ボランティアマネージについて学べた。

平成23年度の展開

- ・りぶらのボランティアシステムの完成度の高いマニュアル化。
- ・ボランティアシステム遂行のための技術力 (マネージャー力、ボランティアの資質等)の向上。
- ・日常的・定期的なボランティア依頼の充実。
- ・単発のイベントボランティアの適切なコーディネート。
- マネージャー力のアップを図る。

No.5 りぶら利用者行動観察のシステム化:活動支援研究(森)

プロジェクトの目的

・昨今の公共施設必要性の社会問題化を考え、「りぶら」が永続的に生涯学習の拠点であり続けるには、利用者の施設活用理由のメカニズムを研究する必要がある。

・りぶらの4つの機能コンセプト達成に寄与する。

活動実績

・奇数月・第1金曜日に定例の会合を開催(各月7名程の出席)。

・4月:プロジェクトの趣旨・目的の細部確認と、春季終日観察の実践。

・5~7月:方法論の検討と設定、及び夏季終日観察の実践。・8~12月:調査結果の情報開示と、秋期終日観察の実践。

・1~3月:臨時終日観察と、次年度継続判断。

目標値:必要施策判断指標の確立。

実績: 概ね指標の確立がシステムとして出来た。

(日々の入館者数を追加するだけで管理が可能)

プロジェクトの成果

・りぶら来館者数の年間の行動特徴が判明

・人口と同比率の多様な世代の利用が判明

・来館者の滞在時間の傾向が判明

・来館者の居住地が距離に反比例と判明

・りぶらが周辺の賑わいにも貢献していると判明

平成 23 年度の展開

利用者行動観察のシステム化が出来たので、研究として収束させる。





No.6 りぶら市民セミナーの実践的研究:活動支援研究(森)

プロジェクトの目的

活動実績

- ・「市民による市民のためのセミナー」「市民がお互いに伝える・習う・支える」 を実践する事により、自己の実現を図る為の、セミナー形態について実践的 な研究をする。
- ・市民が学んだ事を他の市民へ伝えていく活動の場を提供するセミナー開設 の研究。
- ①奇数月・第1金曜日に定例の会合を開催(各回、概ね10名程出席)。
- ②偶数月・第1金曜日に"しゃべり場"を開催(各回、概ね20名程度参加)。
- ③毎月・第2木曜日に"案内窓口""経験伝授=ひざ掛けづくり"を開設 (案内窓口:来訪者延べ5名、ひざ掛けづくり:概ね10名参加)。
- ・4月:プロジェクトの趣旨、目的の細部確認。
- ・5~12月:実践しながら市民セミナーのしくみについて研究。
- ・1~3月:実践しながら次年度継続の判断。

目標値: りぶらの市民セミナー形態を確立する。

実績:3本柱(案内窓口・しゃべり場・経験伝授)の形が確立できた。

プロジェクトの成果

- ・案内窓口に5人の来訪者が有り、ニーズに沿った案内ができた。
- ・案内窓口来訪者が、しゃべり場に参加された。
- ・しゃべり場に継続して20名近くの参加、毎回新規参加もあった。
- ・しゃべり場参加者が、その後の過ごし方を見直した。
- ・経験伝授 = ひざ掛けづくりに継続して10名程度の参加があった。
- ・しゃべり場参加者が、ひざ掛けづくり参加へ展開した。

平成 23 年度の展開

・セミナー形態が確立できたので、研究として収束させる。





No.7 チーム HAPPY! パパ: 個別(斎藤)

プロジェクトの目的

- ・子育で不安が叫ばれる中、家庭での子育でに焦点を当て、父親が自分らし く子育でができることを目指し、幸せな家庭づくりに貢献する。
- ・父親の子育て支援を岡崎市内に確立するために、生涯学習としての市民ニーズを模索し事業を展開することを目的とする。

活動実績



活動日	活動内容	参加者数	
$4/6 \sim 1/31$	~ 1/31 事業の企画と準備、振り返り(15 回)		
8/20	①「親子でいきものみっけ」	30名	
9/19	②「��り方・ほめ方講座」 9/19 ③子どもプログラム I 「電車の豆知識と絵本の読み聞かせ」		
10/2	④「パパとピザ作りに挑戦!」	24名	
10/30	⑤性教育セミナー「パパ私はどこから来たの?」 ⑥「子どもプログラム II」	48名	

プロジェクトの成果



- 目的を達成するために、事業を大きく2つに分けた。
- (1) 父親と一緒に参加するイベント 「親子でいきものみっけ」、「パパとピザ作りに挑戦!」
- (2) 父親が子育ての日常に役立つ知識を得るイベント 子どもが楽しめる子どもプログラム、「��り方・ほめ方講座」、 性教育セミナー「パパ私はどこから来たの?」



(1) の成果は、アンケートから「子どもと一緒に過ごす事が出来て楽しかった」「子どもとまたピザ作りをしたい」など、父親と子どもが楽しく時間を過ごす事ができ、また家庭に帰っても同じようなひと時が過ごせる事が感じられるイベントになった。また、「日頃、子どもとゆっくり過ごす事が出来ないが、今日はたっぷり子どもと触れあう事ができて良かった」という声が多く聞かれた。父親も子育てに参加する意識はあるものの、つい日頃の忙しさに流されてしまい、子どもとの触れ合いもできなくなっているというニーズを把握することができた。



(2) の成果は、性教育セミナーにおいて「親として子どもに伝えたい事のひとつにしたいと思った」「子どもの命を守る事につながる大切な事だと納得した」という感想を得た。これらの事業は、育児不安の解消に役立つ事が分かった。子育てを学ぶ機会が必要であり、定期的な開催が望まれている。

平成23年度の展開

岡崎市が子育てのしやすい街となり、幸せな家庭が更に増えることを願い、 父親の子育て支援、そして母親・妊婦なども視野に入れた総合的な子育て支 援事業を企画していく。今後は、「勇気づけの子育て陽だまりの会」が事業 を引き継いでいく。

No.8 講演会 & フォーラム: 全体 (山田)

プロジェクトの目的 企画を通して、りぶらの4つの機能を活かすための啓発をする。

活動実績

- ①森下芳則氏講演会「『いい街づくり 役立つ図書館』をめざして」 5月22日(土)14:30~16:20 会議室301・302
- ②りぶらフォーラム 2010「りぶらを活用した、これからの生涯学習」 2月 26日 (土)11:00 \sim 16:00 りぶらホール
 - (1)2010年度の活動報告をパネル展示
 - (2) 基調講演 & パネルディスカッション

【講演】小川俊彦「生涯学習施設としてのりぶらについて」

【講演】斉藤秀平「りぶらの役割と、これから……」

【パネラー】米津 眞

【パネラー】山田美代子

プロジェクトの成果

講演会やフォーラム・事業紹介に関する方法の提言や、図書館や生涯学習に 関する内容の提言・問題定義など、参加者から多くの意見を得ることができ た。アンケート結果は、資料 (P.27) 参照。

平成 23 年度の展開

利用者のニーズを把握し、よりよい内容の企画を進めていきたい。

森下氏



斉藤氏



小川氏



パネルディスカッション



No.9 シネマ・ド・りぶら: 個別(内田)

プロジェクトの目的

図書館の映像資料を活用し、スクリーンでの映画鑑賞機会を作るとともに、映画にまつわる関係資料の案内をして、図書館資料の活用を図る。

活動実績

上映会開催日	上映作品(会場:りぶらホール)	参加人数
4月8日(木)	『嵐が丘』	260 人
6月10日(木)	『道』	278 人
8月19日(木)	『少林サッカー』 アンケート実施	71 人 回収 49 枚
10月7日(木)	『地下室のメロディー』 アンケート実施	141 人 回収 84 枚
12月2日(木)	『私の頭の中の消しゴム』	100人
2月3日(木)	『素晴らしきかな人生!』	205 人

- ・上映会開催日に前後して(約2週間)、関連図書の展示を実施した。
- ・上映会当日、「コラム・ド・シネマ」を配付。

プロジェクトの成果

- ・幅の広いジャンルの作品の提供やアンケートの実施で、利用者のニーズを 計ることができた。
- ・アンケート内容に、関連図書展示の案内やサロンの案内を盛り込むことで、 内容の周知をすることができ、利用者が増えた。

アンケート結果は、資料 (P.28~29) をご参照下さい。

・毎回、決まったボランティアの方(2名)に参加していただいた。

平成23年度の展開

アンケートの結果などから、上映可能な作品の選択肢を拡げるため、有料のソフト(鑑賞料は無料)も利用していきます。また、関連の図書利用や参加者の交流を促進するため、上映作品や関連図書に則したテーマで、講演や学習会などの「シネマサロン・セミナー」を、随時開催していきます。

	_
○ 魚	
100mm-1-201/00 (100mm-1-00mm)	

開催日予定日	上映予定作品
4月14日(木)	『第三の男』
5月12日(木)	『おくりびと』
7月14日(木)	『巴里祭』
8月25日(木)	『ライラの冒険』
10月13日(木)	『死刑台のエレベーター』
12月8日(木)	『罪と罰』
2月16日(木)	『麦の穂をゆらす風』

第1回 シネマサロン・セミナー 6月16日(木)14:00~ 「『おくりびと』の現場から」 お話:中村典子さん



No.10 りぶらまつり:全体(りた)

プロジェクトの目的

りぶらには、市内各地の市民センターや地域交流センターなどを拠点にして、地域固有の多様な取り組みを統括する『中央機能』と、「図書館」、「活動支援(生涯学習/市民活動/国際交流/男女共同参画)」、「文化創造」、「交流」という4つのテーマを束ねる『複合機能』という2つの主要な役割がある。

りぶらまつり 2010 では、これら 2 つの役割を踏まえ、岡崎市民、岡崎で活動する市民活動団体・地域活動団体・NPO、企業、行政などが結集して、『地域の魅力』と『活動 (テーマ) の魅力』を発信し、地域と人、テーマと人、地域とテーマがつながるまつりを目指す。

活動実績

【実行委員会】

【りぶらまつり当日】11/13(土)、14(日)

来館者:16,672人(13日:8,278人、14日:8,394人)

参加団体:66 団体

■図書館ステージ 19 団体

生涯学習の拠点として、市民の知的活動と文化活動を表現するステージ

■活動支援ステージ 15 団体

生涯学習活動・市民活動及び社会貢献活動を総合的に表現するステージ

■文化創造ステージ 16 団体 歴史的個性の特化、文化的個性の継承、産業的個性の創造、市民の心を 育むステージ

■交流ステージ 14 団体

市民の知的・文化的ニーズに応じた多様な交流機会を創出し、Libra 内部の横断的なつながりと、中心市街地とのつながりを促進するステージ

■地域ステージ2団体

市内各地で起こっている地域固有の多様な取り組みを魅せるステージ

■ FOOD ブース 10 店舗

伊賀側沿いの広場を活用して、青空 FOOD 市場が出現





- ■一箱古本市 13 人 プロムナードのウッドデッキ上に、素人なら ではの古本商人が集結
- ■フリーマーケット7人 岡崎をより良くするために応援基金への寄付 を募りながら、まちへ誘う賑わいを創出
- ■りぶらまつりポイントカード 全ステージを制覇してもらうために導入。景 品は、LSC グッズと参加団体が用意したこだ わりの一品

【懇親会】11/27(土)13:30~16:30

プロジェクトの成果

【成果】

平成 21 度は、りぶらの"空間"を余すところなく活用することに重きを置いていたが、今年度はりぶらの"機能"(=「図書館」「活動支援」「文化創造」「交流」の4つの機能)をより活発にすることを目標に掲げ、それらの機能に基づく4つの部会(=ステージ)と、岡崎の各地域での活動や魅力を発信する「地域」ステージからなる実行委員会を構成し、5回の全体会と逐次行われるステージ会議により、実行委員の主体的な関わりを促しながら企画を進めた。

とりわけ、参加団体間で、準備段階で必要なものや足らないものを補いあったり、ステージごとに目玉企画や、当日の景品として自分たちで提供できるものを考えたりすることを課したことで、実行委員の連帯意識を高めることに結実した。また、実行委員長・各ステージリーダーを参加団体から選出し、それらをサポートする LSC の体制が構築できたことも、初年度からの大きな前進だったと言える。

【課題】

- ・多様な団体による多彩なプログラムゆえ、イベント自体のメッセージや中 身が伝わりにくい点が克服できなかった。
- ・ねぶたパレードなど、まちに賑わいを取り戻すための仕掛けはあったものの、「まちを挙げてのおまつり」というムードづくりにいたらなかった。
- ・周知方法 (チラシの配布等): 実行委員に自主的に配ってもらう方式を取った結果、大量のチラシをまくことができたが、来館者数は去年より少なかった。 効率を考慮して、戦略的に周知する方法を再考する必要がある。
- ・大規模イベントをマネージメントするノウハウについてはまだ試行段階にあり、想定以上の労働コストが生じてしまった点を反省し、次回に活かしたい。
- ・一過性のイベントではなく、持続的な関係性の保持やりぶらの活性化に寄与できているかについて、検証しつつ改良に努めたい。

平成23年度の展開

- ・懇親会を兼ねた反省会で、次年度のりぶらまつりへの展望を見ることができた。
 - → "図書館を核とした生涯学習拠点"の特徴を活かす
 - →メッセージをより明確にする
 - →地域交流センターの蓄積をつなげる
- ・Libra・LSC・りた・岡崎都心再生協議会(中心市街地活性化の観点から)のそれぞれのミッションと役割分担をすり合わせながら、より高度な連携を図っていきたい。







No.11 りぶら交差点 (LSC 事業公開): 全体(森)

プロジェクトの目的

りぶらの果たすべき 4 つの機能を、りぶらサポータークラブの活動内容を通 して検証し、今後の施策や事業内容に反映する。

活動実績

実施日: 平成 22 年 10 月 9 日 14:00 ~ 16:30 (参加人数:16 名)

- ・りぶらのコンセプト(基本・4つの機能)を具体的尺度に展開し、各事業がどのように影響しているかを検証。
- ・りぶらサポータークラブの各事業の活動内容を説明して、各コンセプトと のかかわりを確認。
- ・会員やりぶら利用者の情報交換の場となり、りぶらのコンセプトに対する 理解が深まるとともに、事業の方向が明確になった。
- ・公共施設は、必ずコンセプトに対する実態を評価しながら活用を推進していく、ということの重要性を共有することができた。

プロジェクトの成果 参加

参加者が少なく、プロジェクト自体の方法を大幅に見直す必要がある。

平成 23 年度の展開

一般の利用者も含めた全体の交流会は、「りぶらまつり」に盛り込む。







No.12 外国人が日本語の歌を歌うのど自慢大会: 個別 (戸松)

プロジェクトの目的施設の活用と国際交流をはかるため、日本語を学ぶ外国人に日本語の歌を

競ってもらい、交流につなげる。

活動実績 2011年2月5日(土):りぶらホール

10:00 ~ リハーサル 10 組 11 名 【司 会】鈴木みのる

 $14:00 \sim$ 予選 10 組 11 名 【審査員】柏木典子、米津 眞、

15:30 ~ 決勝 5 組 6 名 山田美代子、内田早苗、香田ともこ

No.	氏 名	出身国	予選曲目	決勝曲目	結果
1	カヨ・マルセロ	ブラジル	長崎は今日も雨だった	海雪	入賞
2	ジェフ・アレクサンダー	フィリピン	I love you	流星	入賞
3	ユ・ケイカ	中国	花のように鳥のように		参加賞
4	シロマ・リカ/ウメツ・アケミ	ブラジル	長い間	キッス 〜帰り道のラブソング〜	優勝
5	トウカイエン	中国	ハナミズキ	雪の華	審査員賞
6	グェソ・ド・ツイ・マイ	ベトナム	残り火		参加賞
7	スズキマリテス	フィリピン	すずめのなみだ	FOR YOU	入賞
8	ダニエル・マクドナルド	ニュージーランド	うらみ節		参加賞
9	アダチ・ジョージ・タダシ	ブラジル	北酒場		参加賞
10	ニッキー・シャー	イギリス	ありがとう		参加賞

プロジェクトの成果 歌の好きな出演者の皆さんは明るく社交的で、とても楽しい時間を共有する ことができた。また、国際交流センター職員や自主事業運営委員会の皆さん、

審査員や司会の方々など、たくさんの方と親交を深めることができた。

平成23年度の展開 第2回を開催します。











No.13 庭で遊ぼう:個別・協働(杉浦)

プロジェクトの目的

- ①「りぶら」の庭(伊賀川~岡崎公園への自然回廊)を生かし、市民の憩いの場とする。
- ②岡崎のまちなかの豊かな自然について、広く市民に情報発信する。
- ③子どもたちが安心して自然遊びを楽しめる環境を整備する。

活動実績



- ① 6/20(日) 19:30~20:30 空き缶ドルナイト 実施。
- ・6/6・13・20の日曜日、市民活動コーナーにて缶ドル作成。
- ・当日、160個の空き缶ドルに点灯(協力:都心再生協議会・都市計画課)。
- ② 6/20(日) 14:00 ~ 16:30 りぶら いきものみっけ隊 発足 & 自然観察会。
- ・7/10(土) 10:00~12:00 りぶらいきものみっけ隊 自然観察会
- 8/22(日) 10:00~12:00パパと一緒にいきものみっけ
- ・9/11(土) 岡崎市主催 生物多様性フォーラム「つながるいのちの約束」に参加。



- 10/10 (日) 10:00 ~ 12:00 秋のいきもの探し (外来種について考えよう) ゲスト:中日新聞岡崎支局 相坂記者
- ・10/23(土) 9:50~18:00「いきものみっけシンポジウム」での事例発表。

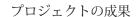
場所:名古屋市科学館サイエンスホール

主催:環境省生物多様性センター

12/5 (日) ~ 12/19 (日)

「りぶらいきものみっけ隊の軌跡展」「いきのもみっけ写真展」開催

- ・12/18(土) 9:30~12:00 菅生川の鳥たち(協力: 岡崎野鳥の会)
- ・1/22(土) 10:00~12:00 身近な野鳥をみてみよう(協力: 岡崎野鳥の会)
- ・2/13(日) 10:00 ~ 12:00 冬に頑張っている虫たち ゲスト: プロナチュラリスト 酒井立子氏
- ・3/20(日)10:00~12:00講演会と自然観察「東アフリカの野生動物保護」宇野動物病院院長 宇野哲安先生



「りぶらいきものみっけ隊」活動を通じて、多くの市民に「りぶら」の庭(伊賀川〜岡崎公園への自然回廊)の"意外にも"豊かな自然に気づく体験をしていただくことができた。

また、「りぶらいきものみっけ隊」は、環境省生物多様性センター主催の「いきものみっけ」HP内で上位(3/31現在全国3位)に位置し、「りぶら」と「りぶらサポータークラブ」の名前を全国に広める一助となった。

平成23年度の展開

「りぶらいきものみっけ隊」の活動を継続し、将来「りぶらいきものみっけ隊」が、岡崎市の自然観察団体のコアとして、LSCから独立した市民活動団体として活動できるよう、下準備をすすめる。





No.14 りぶらを活用:協働(斎藤・山田)

プロジェクトの目的 多世代にわたる利用者がりぶらで交流し、新しいつながりを作れるようにす

るために、施設を最大限に活用した協働企画を募集・提案・実施する。

活動実績 ①七タサロン:岡崎市図書館交流プラザ自主事業実行委員会との協働事業

日時・場所:7月5日(金)~7日(日):りぶらホール

参加団体:おはなしの森「ころころくまさん」

学校読み聞かせボランティア交流会

羽根小学校・読み聞かせグループ「絵本の宅急便」

愛知教育大学付属小学校「図書クラブ」

②冬のコンサート

日時・場所:12月19日(日)10:00~12:30:りぶらホール

参加団体:ふたば幼稚園(年中・年長組の子どもたち)

PTA コーラス連盟合唱団

童謡 すみれの会

プロジェクトの成果

・行政の自主事業実行委員会と協働ができた。

・多くの市民団体や幼稚園と、協働でイベントを盛り上げることができた。

平成 23 年度の展開

・自主事業実行委員会と、より多くの事業で協働を進めたい。

・冬のコンサートを、もう一度「お堀通り」で開催したい。

・市民団体や地域をつなぐ事業を企画・実施したい。













生涯学習講師養成講座

プロジェクトの目的

市内外各所において学習活動をしてきた市民を対象に、得た学びを伝えることの楽しさや大切さ、講師になるための話し方の技術、また、生涯学習複合施設としてのりぶらの活用法などを学ぶ講座とする。

活動実績

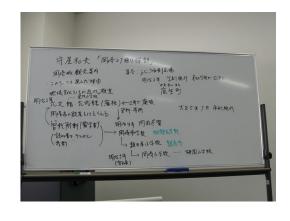
開催日時	内容	場所・参加者数	
3月1日(火) 13:30~16:30	岡崎市が進める生涯学習についての理解と交流 基調講演「生涯学習とは? 一岡崎市の学びの歴史から一」	会議室 101 参加者 46 名・職員 2 名 講師:岡田 洋司 (愛知学泉大学部教授)	
3月4日(金) 13:30~16:30	講師として自立するための技 術講習など	会議室 101 参加者 40 名・職員 1 名	
3月21日(月)	実践と意見交換会	参加者 15 名・職員 1 名	
3月22日(火)	13:30 ~ 16:30	参加者 19 名・職員 2 名	
3月24日(木)	会議室 103/101	参加者 14 名・職員 1 名	

プロジェクトの成果

- ・岡田先生のお話は大変わかりやすく、受講生にも好評だった。
- ・インタビューゲームやワークショップで、どのような人がどのような活動をしているのかということの情報共有ができた。
- ・発表は、3日間通して、それぞれにわかりやすく伝えられていた。自主的 に手を挙げていただいた方々の発表だったので、よくまとまっていてこれから講師にと考えている方の参考になった。
- ・参加して有意義だったという感想がほとんどだったが、改めて、「講師養 成講座」という名前への疑問もあった。
- ・参加者全員生涯学習に対する関心が高く、今後の取り組みにつなげていける手応えを感じた。

平成23年度の展開

「岡崎生涯学習シンクタンク」として定例的に研究会を開催していく。 5月から第3火曜日の午後、102A(定員24人)に開催。





派遣

図書館交流プラザ運営協議会:山田・斎藤

2010年 6月17日(木)14:00~16:00 2010年11月22日(月)14:00~16:00 2011年 2月15日(火)14:00~16:00

会議録

→ http://www.city.okazaki.aichi.jp/appli/07/wp07_kaigiroku_list.asp

図書館交流プラザ自主事業実行委員会:山田・森

2010年 5月10日(月)10:00~ 2010年10月29日(金)15:00~ 2011年 2月 3日(木)10:00~

第2次岡崎市生涯学習推進計画策定委員会:森·戸松

2009年10月9日(金)14:00~16:00 2010年2月15日(月)14:00~16:00 2010年5月28日(金)14:00~16:00 2010年7月9日(金)14:00~16:00 2010年8月20日(金)14:00~16:00 2010年9月2日(木)14:00~16:00 2010年12月10日(金)14:00~16:00 2011年1月31日(木)14:00~16:00

2011年3月に策定・公表された「第2次岡崎市生涯学習推進計画」において、りぶらサポータークラブとの連携が明記され、計画の推進に向けて、市全体の生涯学習支援を継続・発展させるための一端を担うことになりました。

生涯学習情報

→ http://www.libra.okazaki.aichi.jp/Search_1.htm 第 2 次岡崎市生涯学習推進計画

→ http://www.libra.okazaki.aichi.jp/pdf/gakusyukeikaku.pdf

【体制について】

今年度の運営会議は、「運営企画会議」「事業連絡会議」に分けていましたが、「役員会」(運営と事業の骨子作り)と「運営会議」(運営情報の共有と各事業検討)にもどします。

「事業連絡」は、それぞれの事業報告書に目通ししていることが前提で、 運営会議は、その上で運営に反映するための意見交換の場とします。

役員の「会計」と「書記」を副代表の兼務とします。ただし、責任者としての役職で、これを補佐するスタッフを配置します。

【事業案について】

以下の事業を実施します。

また、その都度必要と思われる事業を展開していきます。

事業区分	No.	事業枠	事業	活動主体	担当
			広報誌発行	- 事務局	戸松
	1	広報	ホームページ		
			りぶらグッズ		
運営	2	りぶらフォーラム		運営委員会	内田
	3	りぶらまつり		実行委員会	杉浦
	4	ボランティアを育む会		研究プロジェクト	山田
	5	岡崎生涯学習シンクタング	ל	研究プロジェクト	戸松
		6 岡崎図書館未来企画	評価指標づくり	研究プロジェクト	戸松
	6		オープンソース研究	研究プロジェクト	
			テーマ展示ブックレビュー	実行委員会	
図書館	7	シネマ・ド・りぶら -	映画上映会	実行委員会	森崎
			シネマサロン・セミナー		
	8	図書館100周年事業準備委員会		準備委員会	山田
	9	絵本を送ろう		実行委員会	щш
	10	りぶら いきものみっけ隊		実行委員会	杉浦
活動支援 交流	11	冬のコンサート		実行委員会	山田
文化創造	12	外国人が日本語の歌を歌うのど自慢大会		実行委員会	戸松
	13	りぶらを活用	公募中	実行委員会	杉浦
りぶら支援		行政事業サポート	子ども遊びワークショップ	総務	田田
うから又仮		11以尹木り小 11	愛知環境絵本まつり	りぶら&図書館	ЩЩ

資 料 編

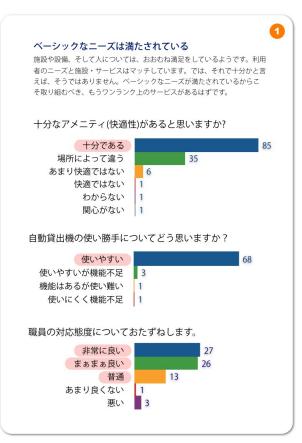
目 次

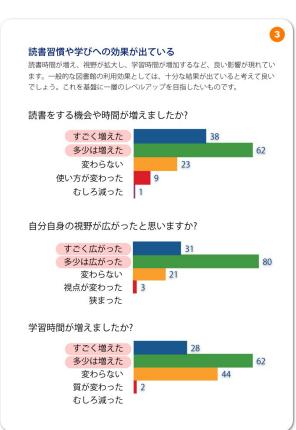
岡崎図書館未来企画	•••	24
広 報		26
講演会・フォーラム		27
シネマ・ド・りぶら		28

【岡崎図書館未来企画】

評価指標づくりのためのアンケート結果 (実施日 7/9・11 日・13 日)

岡崎図書館未来企画 アンケート調査 調査の概要 総質問数は71問。設問数が多いので、次の3つのテーマに分けて行いました。 1 施設と設備について 2 資料とサービスについて 3 影響と効果について これらは、図書館を構成する「内部機 能」「外部機能」「社会機能」に沿っ ています。 調査対象が偏らないよう 性別 に、調査員が声を掛ける形で行いまし た。男女比率や年齢別の構成比は、LSC の別プロジェクトである行動観察に 男性 よって明らかになっていますので、今 後はそのデータと照合し、より詳細な 情報を拾い上げます。 年齢 170 44 ● 10代 ● 20代 ● 30代 ● 40代 ● 50代 ● 60代 ● 70代 ● 80代 46 45 職業 20²⁷ 67 ● 学生 ● 会社員 62 ● 自営業 ● 公務員 主婦無職 ● アルバイト ● その他 84 利用の中心は本を読む楽しみ 全体に「本を読む」「本を借りる」という、「読書や趣味」といった、一般的 な図書館のイメージに則した使われ方がされていることがわかります。 おもにどのような目的で中央図書館を利用していますか? 本を借りる 287 本を読む 116 CDやDVDを借りる 54 CDやDVDを鑑賞する 調べる 68 勉強 94 講座に参加する 29 新聞や雑誌を読む 36 グループ室や研究室の利用 読書 196 趣味 155 学習 127 研究 23 暇つぶし 32 調査 26 休憩 11 その他 5





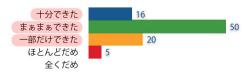
図書館を「活用する」という意識がない

調べたり研究をするなどの高度利用者は、あまり多くありません。高度利 用という視点から見ると、そもそも利用者に「高度利用をする」という考 えがない、もしくは低いというのが現状です。図書館からの働きかけも十 分とは言えません。

図書館の資料で調査や学習をしますか?



図書館の資料で目的は達成できましたか?



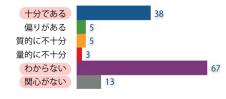
資料を充実する場合の希望がありすか?



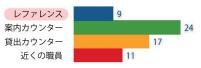
レファレンスサービスの利用度も低い

図書館の高度利用が増えるということは、そのまま図書館の価値が高まるということです。例えば歴史資料はここにしかない貴重な資料ですが、価値を知る人には十分な内容であるにもかかわらず、多くの人がその価値を知りません。資料探しに一番効果があるレファレンスサービスの利用度も低いようです。この領域は、大きな可能性を秘めています。

岡崎の歴史資料は十分あると思いますか?



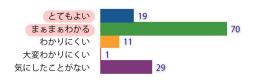
資料が見あたらないときはどこに相談しますか?



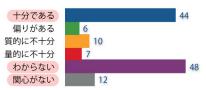
1階の豊富な資料の利用度が低い

高度利用が弱いという傾向は、ポピュラーライブラリーとレファレンスライブラリーに対する認識からも見て取れます。ポピュラーライブラリーの分類について「わかりにくい〜気にしたことがない」を合算しても、41なのですが、レファレンスライブラリーについては、60という数字が上がっています。

ポピュラーライブラリーの分類はわかりやすい?



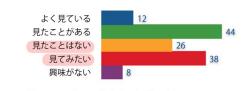
レファレンスライブラリーの資料は十分ですか?



テーマ本展示コーナーをPRすべし!

テーマ本展示のコーナーをみると、興味を持っている人や内容の評価の高さに比べて、知らない人の比率が多いことがわかります。PRをすれば、利用者に喜ばれ、担当者への手応えとなって返ってきます。 図書館員の努力を市民がしっかりと受け止められるようになることは、職員のやりがいにもつながる大切なテーマです。

テーマ本展示コーナーを利用していますか?



テーマ本展示コーナーの内容はいかがですか?

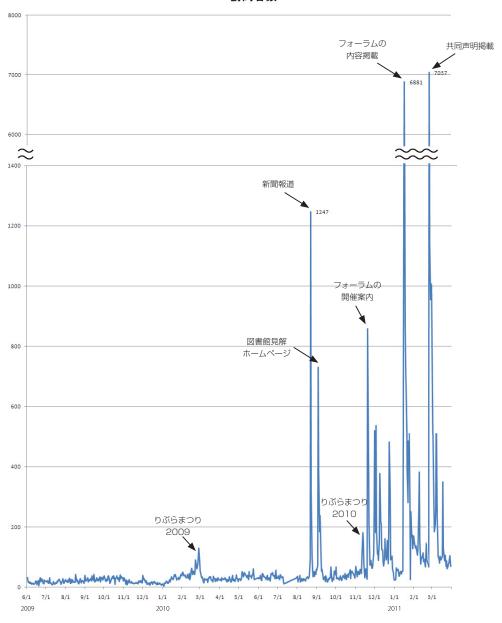


未来企画のこれから

図書館の高度利用に向けて、これまでに作成した「図書館の機能マトリクス」と 本アンケートによる客観的データを元に、企画提案をしていきます。また、より 良い図書館の活用方法を、利用者・職員の皆さんとともに、学んでいきたいと考えています。よろしくお願いします。

【広報】ホームページアクセスデータ

訪問者数



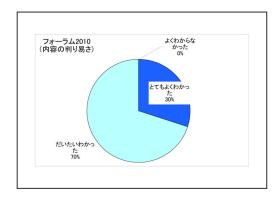
■アクセスの多いページトップ10

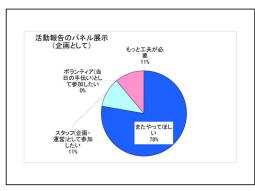
サイトの中でアクセス数の多いページです。

No.	タイトル	URL	アクセス数
1	"Librahack"共同声明	http://www.libra-sc.jp/project/2011022422184615.html	4,763
2	"Librahack"共同声明に関する詳細情報	http://www.libra-sc.jp/project/2011022422232861.html	2,536
3	りぶらサポータークラブ	http://www.libra-sc.jp/	1,031
4	基調講演 "Librahack"事件を総括する	http://www.libra-sc.jp/project/2011011511581447.html	540
5	パネルディスカッション	http://www.libra-sc.jp/project/2011012315571803.html	199
6	りぶらサポータークラブ情報誌 LibraIon vol.14	http://www.libra-sc.jp/official_organ/doc/2011022823060148_1.pdf	183
7	設立趣意	http://www.libra-sc.jp/about_us/2009052808581204.html	173
8	2月の活動報告	http://www.libra-sc.jp/project/2011022012444925.html	152
9	更新履歴	http://www.libra-sc.jp/news/news.html	125
10	基調講演 これからの図書館が目指す道	http://www.libra-sc.jp/project/2011011513415907.html	112

【講演会・フォーラム】

「りぶらフォーラム 2010」のアンケート結果



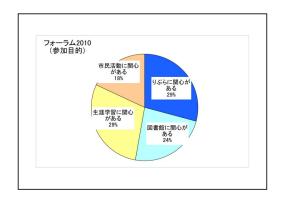


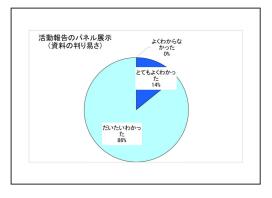
【方法提言】

- ・男性 3 人のパネラーは、頭の堅いお年召した方々。 日本的講演会の従来型で少しも変わっていないこと に少々落胆。箱は近代的、中身は古典的。柔軟な若者 たちやしなやかな女性たちも入って、というか入れ ていただきたい。
- ・パネリストの回答が時々的外れに思いました。難 しいと思いますが、車座集会のように双方向のコミュ ニケーションがしたいです。

【内容提言】

- ・市民主導のりぶらにするという考え方は理解できました。私は老若男女大人も子どもも、生活の潤いや癒しの場所にするのがよいと思うし、現段階ではそうなっている。さらに深めるには?
- ・欧米における学校教育と社会教育の区分について、 もう少し詳しくお話を伺いたい。また、社会教育の長 としての図書館長の社会的な位置付けや、その職に あるための資格、資質について。
- ・司書を目指す人、司書となる人たち(いわゆる適性のある方)と、いわゆる市民サービス(対人サービス)として求められるものにミスマッチがあるように思うのですが、こうした構造的(というか根本的)な課題を解決に導くための、具体的なアイデアやイメージがあれば提示してください。





【問題提起】

- ・各大学が所蔵する資料、特に電子化された情報を、 個別の大学の垣根を越えて全国ネットの形で利用で きるようになるとすばらしい。図書館がその核にな れないであろうか。
- ・図書館~市民活動~文化~交流:全てが一体化したりぶらになっていくとよいなと思います。
- ・生涯学習は現行、行政の企画で進められている。 市民企画は許されないのか?

【内容感想】

- ・市民の繁栄・活性化にいたる道のりは遠いと感じました。
- ・「新しい岡崎(社会)が生まれる現場はりぶらである」と感じる、よいフォーラムであったと思います。

【「りぶら」のイメージ】

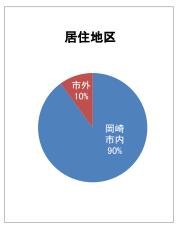
- ・調べることの楽しさを自ら知る学校。
- ・ネットで交流の輪を作り上げてきた人たちが、オフラインで直接顔を合わせる交流の場。
- ・リテラシー (特に情報、メディア)教育の場。
- ・生涯学習、市民活動のあり方の研究センター。
- ・切れ切れの情報 (インターネットの世界)をつなぎ合わせる機能のセンター。

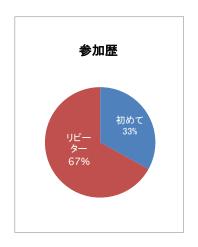
【シネマ・ド・りぶら】

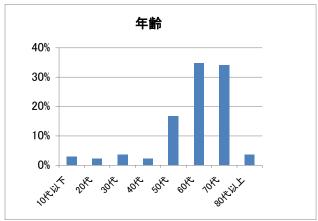
シネマ・ド・りぶらアンケート集計結果 [第1回(2010/8/19)+第2回(2010/10/7)]

1. 上映会参加者のプロフィール

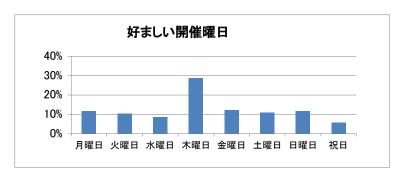


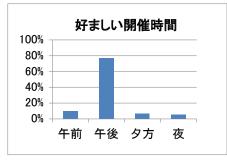


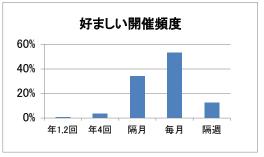




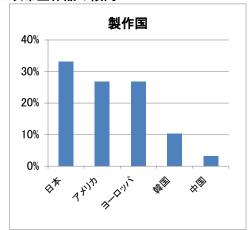
2. 上映会開催曜日、時間、頻度に対する要望

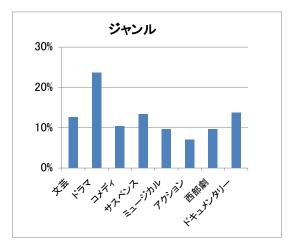


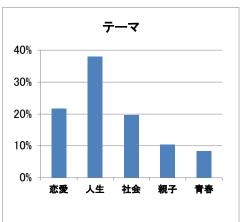


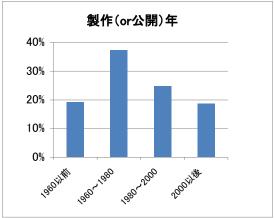


3. 上映希望作品の傾向



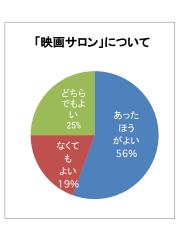


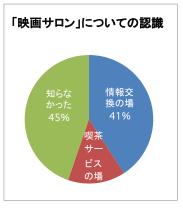


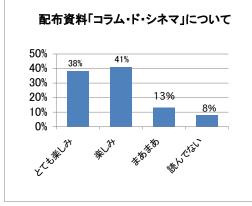


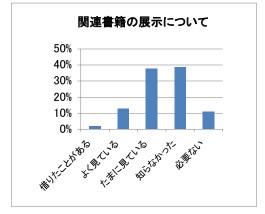
4. その他











りぶらサポータークラブ平成 22 年度 活動報告書 平成 23 年 3 月

りぶらサポータークラブ 〒 444-0059 岡崎市康生通西 4 丁目 71 番地 岡崎市図書館交流プラザ市民活動センター内 TEL/0564-23-3114 FAX/0564-23-3142 info@libra-sc.jp http://www.libra-sc.jp